

OJジャーナルジャッキ (JJ)
 アルミニウムジャッキ (AJ)
 爪付ジャーナルジャッキ (NJ)

取扱説明書

『取扱説明書をよく読み、内容を理解して
 からご使用下さい。また、取扱説明書は
 いつでも読めるよう保管して下さい。』

(社)日本油空圧工業会会員・(社)日本鋳圧機械工業会会員・(社)日本建設機械工業会会員



本社	〒546	大阪市東住吉区駒川1丁目8番29号	☎(06) 714-2880(代)	FAX(06) 719-0809
大阪営業所	〒546	大阪市東住吉区駒川1丁目8番29号	☎(06) 714-2881(代)	FAX(06) 719-3377
東京営業所	〒136	東京都江東区東砂7丁目19番2号	☎(03) 3646-3791(代)	FAX(03) 3648-0630
営業グループ	〒546	大阪市東住吉区駒川1丁目8番29号	☎(06) 714-2882(代)	FAX(06) 719-0809
九州出張所	〒804	北九州市戸畑区中原東1丁目20番14号	☎(093) 871-8213(代)	FAX(093) 871-8213
社員教習所	〒546	大阪市平野区加美南4丁目1番6号	☎(06) 791-1125(代)	FAX(06) 794-6125

天理工場	〒632	奈良県天理市中町22番地	☎(07436) 4-1511(代)	FAX(07436) 4-0781
千葉旭工場	〒289-25	千葉県旭市鎌敷9163番地	☎(0479) 63-7291(代)	FAX(0479) 63-8233
加美ファクトリー	〒547	大阪市平野区加美南4丁目1-6	☎(06) 791-1125(代)	FAX(06) 794-6125
加美工場	〒547	大阪市平野区加美北5丁目2番25号	☎(06) 792-4710(代)	FAX(06) 792-4708
都祁工場	〒632-02	奈良県山辺郡都祁村3240-1	☎(07436) 2-0478(代)	FAX(07436) 2-0479



目 次

1. 適用	2
2. 仕様	2
3. ジャッキの各部名称と構成部品	3
4. 安全編（警告！） 使用上の注意事項 人身事故、災害防止のための重要な事項が記載されていますので十分に理解してからご使用下さい。	4~6
5. 使用前の点検	7
6. 操作要領	7
7. 安全台（オプション）	8
8. 送り台（オプション）	9
9. 保守管理	9
10. 保証	10
11. 修理	10

1. 適用

①本ジャッキは下記用途に使用して下さい。

- ・ジャッキアップ、ジャッキダウン（重量物の昇降）
- ・重量物の位置決め
- ・重量物の支持
- ・橋梁工事
- ・造船工事及び補修
- ・土木及び建築工事等の用途

②動力駆動はできません。必ず手動により操作を行なって下さい。

③ジャッキ操作は経験者又は、責任者の指名した人が操作して下さい。

2. 仕様

使用温度範囲：-20℃～+60℃

2.1 ジャーナルジャッキ(JJ)、アルミニウムジャッキ(AJ)、爪付ジャーナルジャッキ(NJ)

表 1. JJ、AJ、NJ仕様

形式		諸元	揚力 (kN)	揚程 (mm)	最低 高さ (mm)	ヘッド径 (キャップ) (mm)	ベース径 (mm)	重量 約(kg)	付属品 ハンドル棒
JJ 低揚程	JJ-1513		150	125	255	63	113	12	φ25×600L
	JJ-2513		250	125	255	77	127	16	φ25×700L
	JJ-3513		350	130	280	87	147	24	φ32×700L
	JJ-5013		500	130	290	105	166	31	φ32×800L
	JJ-10011		1000	105	310	127	235	75	φ32×1500L
JJ 中揚程	JJ-1015		100	150	280	65	108	12	φ25×600L
	JJ-2525		250	250	395	77	127	21	φ25×700L
	JJ-3020		300	200	350	95	148	26	φ25×700L
	JJ-3525		350	250	410	87	147	32	φ32×700L
JJ 高揚程	JJ-5025		500	250	445	105	166	43	φ32×800L
	JJ-2533		250	330	485	77	127	25	φ25×700L
	JJ-3535		350	350	535	87	147	38	φ32×700L
AJ	JJ-5035		500	350	555	105	166	49	φ32×800L
	AJ-1008		100	80	175	58	102	5.9	φ27.2×575L
	AJ-1510		150	100	200	58	102	6.6	φ27.2×575L
	AJ-2510		250	100	200	73	122	9.2	φ30×675L

形式		諸元	爪部 揚力 (kN)	揚程 (mm)	最低 高さ (mm)	爪まで の長さ (mm)	爪の幅 (mm)	爪の奥行 (mm)	重量 (kg)	付属品 ハンドル棒
NJ	NJ-0615		60	150	280	30	70	45	23	φ25×600L
	NJ-1013		100	125	266	40	75	50	29	φ25×600L
	NJ-1513		150	125	270	45	80	50	38	φ25×600L
	NJ-2513		250	130	298	55	90	55	60	φ32×700L
	NJ-3513		350	130	315	60	100	55	78	φ32×800L

3. ジャッキの各部名称と構成部品

●OJジャーナルジャッキJ形 (100~500kN)

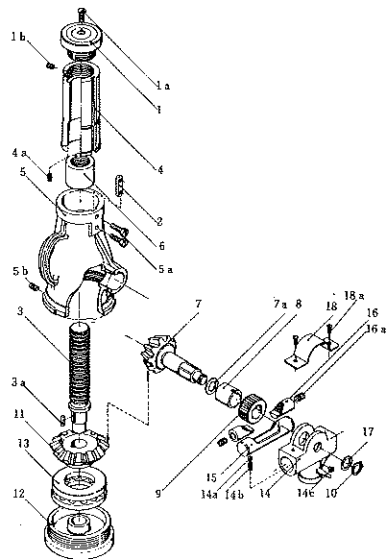
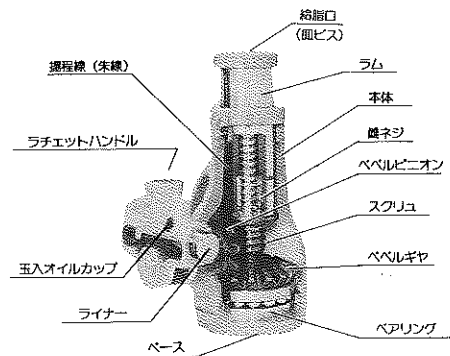


表2 部品表

No	部品名	数	備考	No	部品名	数	備考
1	ヘッド	1		9	ラチェットボルト	1	
1a	皿ビス	1		10	止メ輪	1	JIS
1b	ノック	1	ヘッド用	11	ベベルギヤ	1	
2	キー	1	ラム用	12	ベース	1	
3	スクリュ	1		13	ベアリング	1	OJタイプ
3a	キー	※	スクリュ用	14	ラチェットケース	1	
4	ラム	1		14a	スチールボール	1	
4a	ノック	2	雌ネジ用	14b	スプリング	1	
5	本体	1		14c	玉入オイルカップ	1	
5a	キーボルト	2		15	ライナー	1	
5b	ノック	1	ベース用	16	フランジ	2	
6	雌ネジ	1		16a	スプリング	2	
7	ベベルピニオン	1		17	ワッシャ	1	
7a	ピニオンワッシャ	1		18	カバー	1	
8	ピニオンブッシュ	1		18a	ビス	2	

※500kNのみ2個

●アルミニウムジャッキAJ形

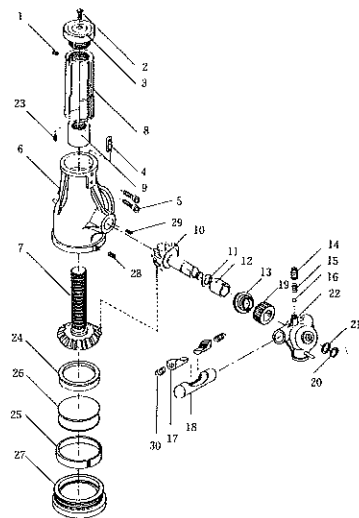


表3 部品表

No	部品名	数
1	六角穴付止ネジ	1
2	すりわり付さらボルト	1
3	ヘッド	1
4	キー	1
5	六角穴付ボルト	2
6	本体	1
7	ギヤ付スクリュ	1
8	ラム	1
9	メネジ	1
10	ピニオンギヤ	1
11	クリヤワッシャ	1
12	ピニオンブッシュ	1
13	キャップ	1
14	六角穴付止ネジ	1
15	スプリング	1
16	スチールボール	1
17	フランジ	2
18	ライナー	1
19	ホイール	1
20	止メ輪	1
21	ワッシャ	1
22	ラチェットケース	1
23	六角穴付ネジ	2
24	スベーサ	1
25	ブッシュ	1
26	パッド	2
27	ベース	1
28	ベース/六角穴付止ネジ	1
29	六角穴付止ネジ	1
30	スプリング	2

4. 安全編

使用上の注意事項

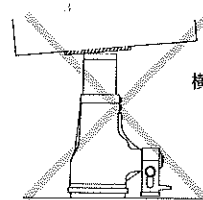
(付記) 日刊工業新聞社発行『ジャッキ入門』
(1冊1,500円)のご購読をお奨めします。

【△警告】

人身事故防止及び機器損傷防止のため、使用前に取扱説明書を必ず読んで下さい。

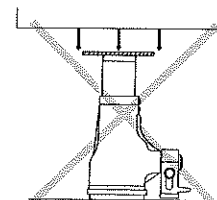
・ジャッキ操作は経験者又は、責任者の指名した人が操作して下さい。

- ジャッキ揚力を超えた荷重を負荷させないで下さい。
- ジャッキは堅固な基台に設置し、倒れないよう適切に支持して下さい。
- ジャッキの荷重受部及びジャッキベースには滑らないように、摩擦材(板)を挟んで下さい。
- ジャッキを操作しない時は、ハンドル棒を抜き、安全な場所に置いて下さい。
高所での作業はハンドル棒を落下させないように注意して下さい。
- 損傷したジャッキや、改造及び整備不良のジャッキは使用しないで下さい。
- ジャッキに斜め荷重や衝撃荷重を負荷させないで下さい。
重力荷重のみとし、風や外力、横荷重がかからないようにして下さい。



横荷重、斜め荷重

図.1

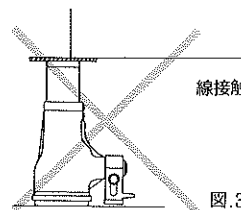


衝撃荷重

図.2

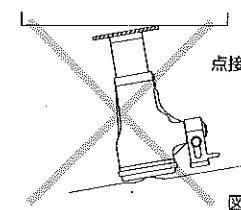
g) 荷重受部中心で垂直に、かつ全面で荷重を受けて下さい。

線接触、点接触や不安定な状態で荷重を受けるのは危険であるほかジャッキの故障につながります。



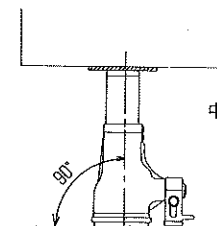
線接触

図.3



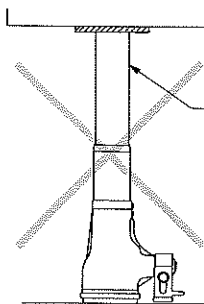
点接触

図.4



中心荷重

図.5



パイプ他
不安定状態

図.6

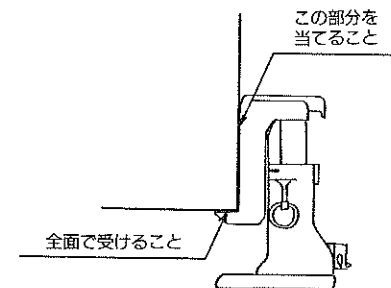


図.7 爪付ジャーナルジャッキ(NJ)

h) ジャッキは平坦で負荷に耐える地盤(コンクリート)又は、基台(木材又は鋼製)に設置して下さい。
振動や揺れの有る所には設置しないで下さい。

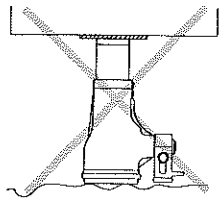


図.8

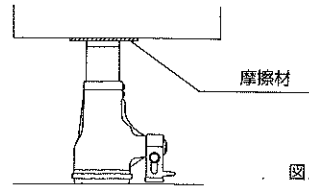


図.9

i) ジャッキは投げたり、落としたりしないで下さい。
特にアルミニウムジャッキ(AJ)は注意して下さい。

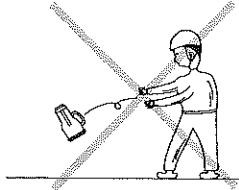


図.10

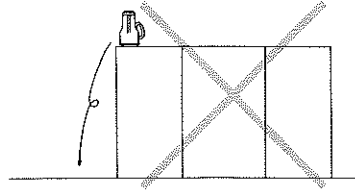


図.11

j) ジャッキのラム揚程線(朱線)を超えて操作しないで下さい。無理に操作すると「ねじ」が固定(ロック)しジャッキが動かなくなります。

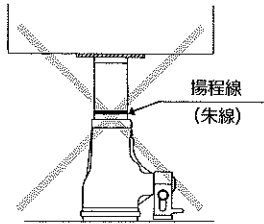


図.12

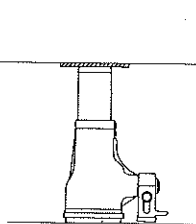


図.13

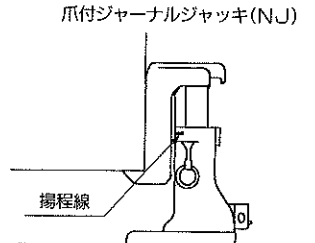


図.14

k) ジャッキヘッドの下面が本体に当たればそれ以上降下操作はしないで下さい。
無理に作動すると「ねじ」が固定(ロック)しジャッキ故障の原因となります。

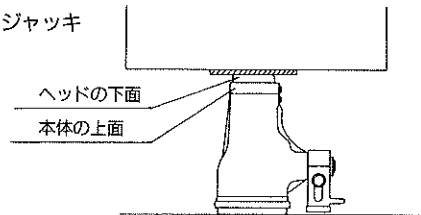


図.15

l) 付属(指定)のハンドル棒を使用し、ラチェットハンドルの穴底まで確実に差し込んで下さい。ハンドル棒の赤マークが見えなくなるまで完全に差し込むこと。又、ラチェットライナーを確実に押し込むこと。

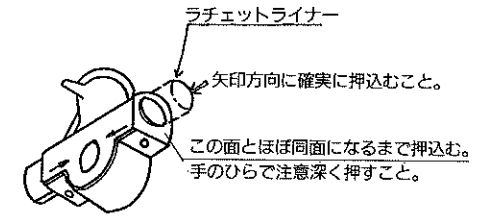
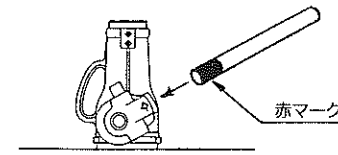
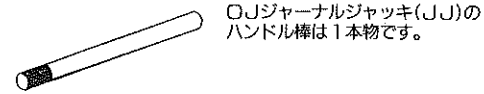
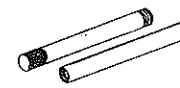


図.16



OJジャーナルジャッキ(JJ)のハンドル棒は1本物です。



アルミニウムジャッキ(AJ)は「ねじ」で2本つなぎになっています。

m) 逆さ使用や引使用はしないで下さい。引張使用の時は引張ジャッキ(PL形)を用いて下さい。

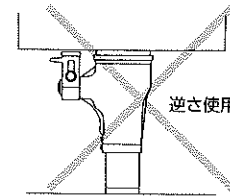


図.17

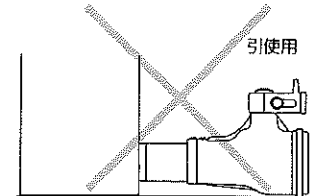


図.18

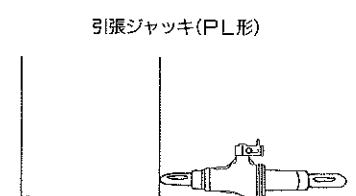


図.19

n) 操作者は安全な位置で操作して下さい。

持ち上げた荷重には確実なサポートを挿入し、安全が確保されるまでは、その荷重の下に入らないで下さい。

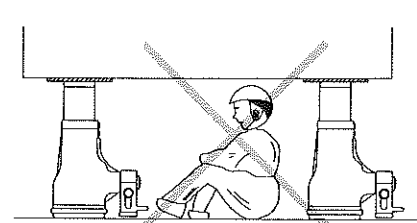


図.20

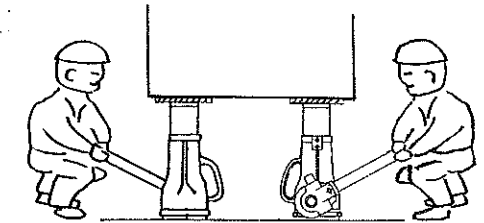


図.21

安全作業をおこなうためヘルメット、手袋、安全靴、作業着の着用をお奨めします。
この警告で全ての状況をカバーすることはできません。常に安全第一に心がけ作業を行なって下さい。

5. 使用前の点検

作業者自身が、ジャッキ使用直前に行なう点検です。

- ①ラチェットハンドルを廻動しラムが円滑に揚降するか、どうかを調べて下さい。
- ②外観チェックを行ない正常であることを確認下さい。(頁9参照)

6. 操作要領

6.1. 一般

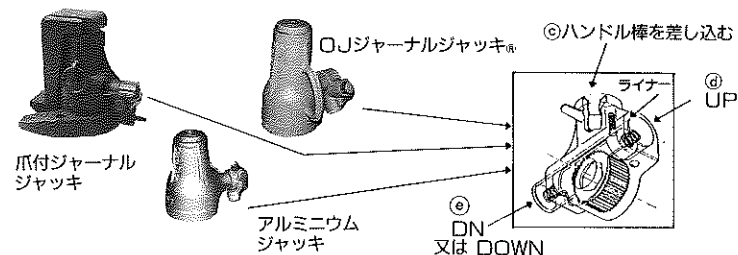
- a) ハンドル棒操作は手動で行なって下さい。
- b) ジャッキを設置する場所は地盤及び被上物の負荷耐力のあることを確かめ、ジャッキの荷重に対して垂直に据え付け、負荷重心に対して安定して扱上できるようにジャッキを設置して下さい。(図.8参照)
- c) ジャッキヘッドと被上物の間に摩擦材(木材あるいは紙片など)を挟んで下さい。
(図.9参照)
NJ(爪付ジャーナルジャッキ)タイプは爪部と被上物の間に摩擦材を挟んで下さい。これは、ジャッキ上の被上物に傷がついたり、あるいは滑るのを防ぐためです。
- d) ジャッキ設置は安全な位置で操作及び調整できるように作業スペースを考えて下さい。
(図.21参照)
- e) 揚力に余裕のあるジャッキを選定してください。
- f) 本ジャッキは屋内使用の設計となっています。雨、水の浸入対策構造とはなっていません。屋外使用や雰囲気が悪い場合はメンテナンス間隔を短くして下さい。特に、グリス給脂並びにグリス塗布を頻繁に行なって下さい。屋外長期使用又は海岸等環境条件が非常に悪い場合は別途ご相談します。
- g) ジャッキの設置基盤が弱い場合や不安定な場合は弊社の安全台をご使用下さい。弊社のジャーナルジャッキには安全台が使えるようベース部に突起が付いています。但し、アルミニウムジャッキ(AJ)、爪付ジャーナルジャッキ(NJ)には安全台は使用できません。(頁8参照)
- h) 降下作業は荷重のバランスを崩してはなりません。ジャッキのストロークが足りないときは、一旦サドルやスペーサで荷重を仮受けするなどして荷重を受け替え、バランスに注意しながら順次降下を続けます。但し、アルミニウムジャッキ(AJ)の使用は適当ではありません。
- i) 設置したジャッキに荷重を載せる場合は、衝撃荷重が加わらないように載せてください。

6.2 複数のジャッキを使用する場合

- a) 複数のジャッキを使用する場合は不均等荷重が発生しやすいため、また安全のため、揚力に充分余裕のあるジャッキを選定して下さい。この場合、通常ジャッキ揚力の50~70%以下でご使用下さい。
- b) 操作の指示、合図
ジャッキ操作は負荷の移動量を監視し、全体のバランス、重心位置を見ながら操作の指示を行なって下さい。特に複数ジャッキを使用する場合は、各ジャッキの操作順序など指示系統を事前によく打ち合せし、間違いのないよう、操作を行なって下さい。

6.3 操作方法

- a) 使用前の点検(頁7参照)
- b) 荷重の重心とジャッキの配置を検証して下さい。
- c) ハンドル棒はラチェットハンドルの穴底まで確実に差込みます。不完全の場合は操作時滑り抜けますので必ず確認をして下さい。尚、アルミニウムジャッキ(AJ)のハンドル棒は「ねじ」の2本つなぎになっています。確実にねじ込んでからご使用下さい。
- d) ジャッキを上昇させるときは、ラチェットハンドルのライナーを矢印「UP」の方向へ確実に押込みハンドル棒を上下に廻動操作します。
- e) ジャッキを下降させる時はライナーを矢印「DOWNまたはDN」の方向へ確実に押込み注意深く(ゆっくり)ハンドル棒を上下に廻動操作します。
- f) ジャッキの上下作動時は常に被上物の安定に注意をして操作して下さい。

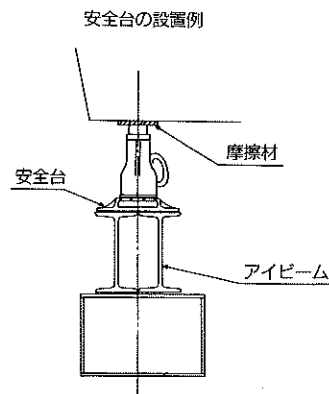


7. 安全台(オプション)

ジャッキの設置基盤が弱い場合や不安定な場合、ジャッキの安定をよくするために使用します。ジャーナルジャッキ(JJ)は安全台に取り付けられるよう、はめ込みの構造になっています。ジャッキの設置地盤が弱い場合にはぜひ安全台をご使用下さい。ただし、ジャーナルジャッキ(JJ-10011)、アルミニウムジャッキ(AJ)、爪付ジャーナルジャッキ(NJ)には使えません。

表4 安全台仕様

諸元 形式	容量 (kN)	ベースの寸法			重量 約(kg)
		長さ (mm)	幅 (mm)	厚み (mm)	
SB-10	100	220	180	10	2.0
SB-15	150	240	190	12	5.0
SB-25	250	300	200	15	7.5
SB-30, SB-35	300, 350	300	220	18	9.5
SB-50	500	400	300	19	20.0



安全台(100kN~500kN用)



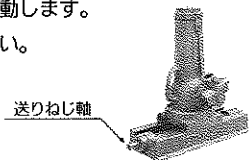
使用法
安全台の上にジャッキを乗せ、ジャッキを約45度回しますと装着されます。

8. 送り台(オプション)

送り台はジャッキに荷重をかけたままで横移動させる時に使用します。
ジャーナルジャッキ(JJ)は、送り台に、はめ込みできる構造となっております。
ただし、ジャーナルジャッキ(JJ-10011)、アルミニウムジャッキ(AJ)、爪付ジャーナルジャッキ(NJ)には使えません。

8.1 使用法と注意

- 送り台の上にジャッキを乗せ、ジャッキを約45度回しますと、送り台とジャッキは装着されます。
- 付属のハンドル棒により、送りねじ軸を廻動させると、横移動します。
荷重のバランスをくずさないよう注意しながら操作して下さい。
- 送り台は水平に設置するよう注意して下さい。
- 荷重横移動時の沈下、浮上があってはなりません。



ジャーナルジャッキと送り台の組合せ例

8.2 仕様

表5 送り台仕様 (ジャーナルジャッキ用)

諸元 形式	容量 (kN)	台の高さ (mm)	送り長さ (mm)	重量 (約kg)	付属品 ハンドル棒
TB-1030	100	85	300	20	φ25×535L
TB-1530	150	85	300	20	φ25×535L
TB-2530	250	90	300	25	φ32×600L
TB-2545	250	90	450	31	φ32×600L
TB-3030, TB-3530	300, 350	97	300	33	φ32×600L
TB-3045, TB-3545	300, 350	97	450	38	φ32×600L
TB-5030	500	108	300	43	φ32×600L
TB-5045	500	128	450	66	φ32×600L



送り台



送り台用ハンドル棒

9. 保守管理

9.1 使用者の点検

表6 点検計画

項目		使用前 注(1)	定期 注(2)
外観点検 ① 銘板	表示の確認 仕様及び警告銘板：脱落のないこと	○	○
② 本体及び ラチェットハンドル	割れ及び有害な損傷なきこと	○	○
③ ヘッド or 爪、ベース	緩みまたは、荷重受け面の割れ及び有害な損傷なきこと	○	○
④ ラム、キー	有害な摺動傷または損傷なきこと	○	○
⑤ ボルト類	ボルト及び回り止め類の緩みなきこと		○
作動点検 ① ラチェットハンドル	噛み合いが正常であること ラチェットホイール、プランジャが異常なきこと	○	○ ○
② スクリューネジ	異常摩耗または損傷なきこと 著しくラム上下方向のガタがないこと		○
③ 無負荷揚降作動	ラム及びビニオンの作動に、異常がないこと	○	○
分解及び摩耗チェック	注(3) [メーカーチェック]		○

注

(2) 定期点検

- 使用前点検 : 経験者または責任者の指名した者が行う点検
 : 操作者による点検
 : 始業時毎
 ……記録を残し継続評価の基礎とする。
- 外観点検及び作動点検により内部不具合の徴候を示した時。 : 使用頻度、使用環境を考慮して定期的に行って下さい。
 ・使用頻度が少ない場合 (約月数回使用) : 3ヶ月毎
 ・使用頻度が多い場合 (約週数回使用) : 1ヶ月毎
 ・屋外使用または使用環境条件が悪い場合 : 1週間毎

9.2 使用者保守、整備

a) 潤滑(給脂)

ジャッキ各摺動部のダスト除去を行ない、グリース給脂及び塗布を必要に応じて定期的に行って下さい。

指定グリース：ダフニーエポネックスグリース EP No1 または相当品

b) 清掃

雨や砂、砂塵にさらされたジャッキは使用する前に清掃して下さい。

ハンドル棒や荷重受部は滑らないよう清掃しておいて下さい。

c) 保管

ジャッキは雨風や砂塵、湿気から守られている場所(屋内保管が好ましい)で保管下さい。

d) 銘板……銘板の表示が不明瞭になった場合、お客様にてお取り替え下さい。

9.3 メーカー点検整備

ご購入後1年または、3年毎に弊社又は、お買い上げの販売店へお申し付け下さい。
点検費は実費でご請求申し上げます。

1年毎 : 使用頻度が多い場合 (約週数回使用)

3年毎 : 使用頻度が少ない場合 (約月1回使用)

10. 保証

弊社製品は納入引渡し後1年の保証を行なっています。万一、加工上及び材質上の欠陥による弊社の責に帰する故障や不具合が発生した場合は新品と交換又は無償で修理致します。但し、欠陥や故障に付随して発生する損害に対しては責任を負いません。又、誤使用・乱用保守不全、不当な修理・改造、天災・災害及び、目的外の用途に使用して発生した故障・損傷に対しても責任を負いません。

11. 修理

修理の際は下記の所にご連絡下さい。(送付先ご回答申し上げます)

連絡先	〒136 東京都江東区東砂7丁目19-2	TEL(03)3646-3791
	㈱大阪ジャッキ製作所 東京営業所	FAX(03)3648-0630
	〒546 大阪市東住吉区駒川1丁目8-29	TEL(06)714-2881
	㈱大阪ジャッキ製作所 大阪営業所	FAX(06)719-3377
	〒632 奈良県天理市中町2番地	TEL(07436)4-1512
	㈱大阪ジャッキ製作所 天理工場工務グループ	FAX(07436)4-0781
	〒547 大阪市平野区加美南4丁目1-6	TEL(06)791-1125
	㈱大阪ジャッキ製作所 加美ファクトリー	FAX(06)794-6125